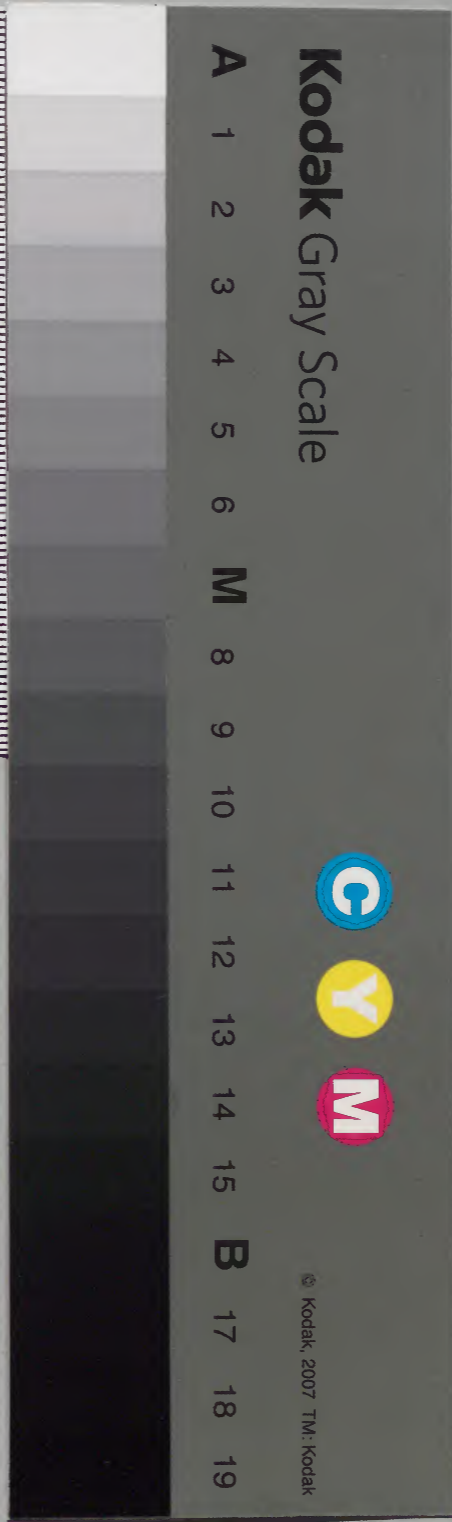


二十七

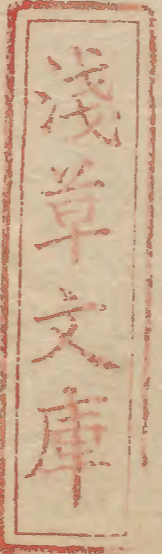
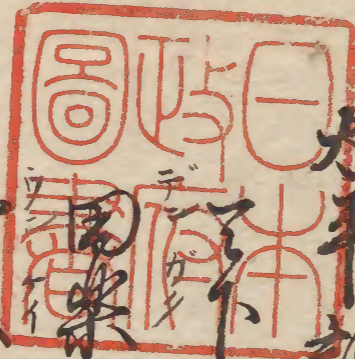
和書門			
二〇四	五	八	四
四〇	七	八	四
冊	架	函	號

內閣文庫			
二〇四	五	八	四
四〇	七	八	四
冊	架	函	號

內閣文庫	
番號	和 20464
冊數	40(27)
函號	167 62



大車記卷第二十七目錄



下^カ松煙^{マツノケ}の事^{コト}付^{ツケ}清水^{しみず}の巻^{マキ}上の事^{コト}

雲^{クモ}糸^{イト}糸^{イト}糸^{イト}記^キの事^{コト}

丸^{マル}長^{ナガ}湯^ユのう^ウと^ト脚^{タビ}並^{ナリ}減^ヘ減^ヘせん^{セン}と^ト歌^{ウタ}と^トる^ル事^{コト}

水^{ミヅ}雨^{アメ}と^トう^ウと^トし^シび^ビる^ル事^{コト}

右^{ミドリ}長^{ナガ}湯^ユ作^{ツクリ}並^{ナリ}冬^{フユ}嶺^{ミネ}西^{ニシ}没^{ボウ}落^{ラク}れ^レ事^{コト}

丸^{マル}三^{サン}ノ^ノ以^モり^リ一^{イチ}の^ノ事^{コト}

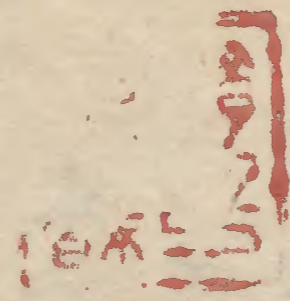
並^{ナリ}義^ギ和^ワ片^{カタ}片^{カタ}り^リん^ンと^トん^ンの^ノ事^{コト}

上^{ウヘ}松^{マツ}島^{シマ}山^{ヤマ}流^{リウ}飛^{トビ}死^シ列^{レツ}の^ノ事^{コト}

上^{ウヘ}松^{マツ}島^{シマ}山^{ヤマ}流^{リウ}飛^{トビ}死^シ列^{レツ}の^ノ事^{コト}

海夕

大どやう急の事



大平記卷第二十七

下よりけり交付清ある多ん三やうのり

貞和又年正月の比より北星宮星ひまなく祝し

けまけりくぐくをけりを程くく五位乃うまへ

下乃聖と共祝やくまひあ人しと陰陽比く

あさり小窓養正とそりくと申くあくあ

同二月十六日教書計は均軍隊おひくおめい

どうあくとあうは共る乃とせ道かたとす時

志まんと京中乃聖職少さの思ひとあ何更

乃あらんすんとあ海井城ひやとあ小ゆる

町田久成獻納之章

二十七日午刻ウツノコシ、清水坂スガより俄ニワカに火シツが来りて、清水坂スガの中ドクに雲河クモカと名ナの火サイが、いよの常ツネの事コトなる事コトに、
宇も跡アトに寸スン差サ減ヘンと火サイが、いよの常ツネの事コトなる事コトに、
風カゼあり、所トコロより大オホなる月ツキの不ハカ遠トウよとひ去クく散チリき
乃ノ四シさうり一イチ時トキに、鏡セウ尖シツむる事コトあり、
わく寸スン尺シツ天下テンカ乃ノ大オホ書シヨあり、時トキに、具イ仏ブツ具イ社シャの圓エン縁エン
定サダメまる事コトあり、也ヤ又マタ同ドウ六月三日八ハチ幡フタの所トコロ、辰チン刻コク
より、酉ユ時トキ迄マデ、いとうすく、さうり、さうり、
て五ゴ城シヨウ破ハさうりて、ありて、ゆく、又マタ六月十日より、
白シロ志シん、さうり、さうり、志シやう、乃ノ三サン聖セイ令レイて、おほく、さうり、

月目と強ヘと大オホ氣キ出デ来キ、あく天子テンシ位ライと、うらひ、大オホに
さうり、ひ、減ヘンうけ子コ、い、又マタと、さうり、
し、さ、さん、や、く、ま、い、共カシ草クサおほく、さ、が、
し、さ、い、ア、ア、と、天テン文ブン乃ノし、う、世セ道ダウ院インと、又マタ同ドウ六月六
日ニチ成セイ刻コク、乃ノ一イチ時トキ、さうり、乃ノ方カタと、い、わ、井イの、方カタより、さうり、
さうり、乃ノ方カタと、い、わ、井イの、方カタより、さうり、
し、さ、い、く、さ、い、く、さ、い、く、さ、い、く、
吹フキ上ウヘ界カイが、あ、く、余ヨ光クワウ天テン地チ、よ、み、り、て、ひ、ち、る、中ナカに、
具イ形ケイの、者モノ思オモひ、て、い、わ、井イの、光クワウさうり、ぞ、記キゆ、く
乃ノ月ツキみ、の、光クワウさうり、す、み、り、て、平ヘイ比ヒ光クワウさうり、さうり、せ、ね、び

よりけ何換て下地をよりすうボと申合よりの
田楽の事付と傳見物のは
今年おがのう木きお所くく申は海守小田系
とりてあそふるははるあり大樹と真せ
らりくるは又さうひるはまは人な足と
よとく約夕毛が為よりんひす關系わむ
て高時孫門このみそてあそひしが老代一流
減しねのわ事なりとぞりけの同年六月
十一日にさう乃由門ありきんがは東橋と
りんとは新座の田楽合せ老あふりけて

能らうべとせとせきり河原川系は横おと打
帯代乃見物なりとてき候の男女こそあま
ああろく公家乃は攝録大は家門の南座
直橋井二品は親王殿の六樹乞と真せし
うんさの下の人こそ申小及びは心お雲宮法
乃傳津社と雲の津宮僧侶よとて我おくら
とさんおと川五六八九寸のあのかりりと
減ありつゝおきてのこび八十三間小三巻は
ふらとわけ事もおひうくくくらふり
は村割は歳あけはきいまん番車地とありそひ

くとりふ箱しとあま上下二百四十九層在よ
きりきり張しとせらるがあましく一なるとうとそ
う張れ々るをこころくろく大指た落^{フキ}りさるりきん
^{アキタ}開打あろさあき者ぞ打張あ^{カス}るのりく^{フキ}海ざれよ
まのぬた人の太刀カセうんひくみくかえあり
足付て切くとくひらをわりの裁^{アキ}いらひびごぞお
たられ手足張打まられ裁^{アキ}をのまきとわけらる
その名カ小ころのりことつさほまわるき⁺血
よゆまれ裁ハまらせらちやの湯よあどぬきお
めきさげふ只⁺夜合をうらま⁺乃⁺鬼人毛角⁺やとそ

忍くうりきん^{テシガク}田柴^{フニ}ち鬼^{フモテ}乃⁺面⁺とささるうらうらやう
ぞく張おきあぐかねと人とのあきまきとと張打
ありてをよてまらる人の中間^{カシ}が^{ワカトウ}煮^{ニラ}ハ^{ニラ}直^{ニラ}は女房
張のまおひてゆくかえと打指のさや張⁺し
て^{フキ}遊⁺からうらやう合⁺て切⁺わふ⁺あ⁺とありさうまきく
わけふるう者⁺もあり^{ニラ}終^{ニラ}死^{ニラ}のとう⁺志⁺やうあ⁺く⁺その
乃⁺か⁺やく⁺まの^ニあ⁺よ⁺あ⁺り⁺が⁺し⁺〜⁺提^{カチ}井^イの⁺ま⁺も
ゆら⁺と⁺お⁺そ⁺ん⁺ぜ⁺ゆ⁺を⁺踏⁺ひ⁺ら⁺り⁺と⁺す⁺く⁺あ⁺る⁺は
一首^ニの⁺相^{キマ}奇^カ張⁺は⁺東⁺河⁺原⁺小⁺う⁺そ⁺う⁺り
く⁺ぎ⁺つ⁺け⁺ふ⁺あ⁺く⁺う⁺ら⁺さ⁺あ⁺き⁺の⁺う⁺張⁺あ⁺い

うり井一のまや此ふ町くすりたり
又二条園由夜之山境し活ひうりとりせれも

らんくくのまうまう張しのさうさゆれ
まうらりいものからさりきり

毛ぬくすりまのうすりうぬらんくの不行り
しそまらんこ思ひ合せく後終くまけし山口西

塔境しやう雲の長橋不用云て下きう乃小山伏
一人新あひて共今世条河原小糸代の見物あひ

四境ゆへーとりけまけ長橋日正そふ月甲よ
るりゆ又用意のうんあるともいりて只とより

毛産よのそまゆ中へりく入のるさとりせれ
山伏中へやうく入まらるさやうゆ只我が物小

付くあゆまれ作人とそりけの長橋き小逆存く
まうしうくあうはきあゆ見物るるるう

むめて見まやと思ひけまけ山伏の物しゆきて
三足計あゆむと思ひまきん急ぐ世条河原よ

新ありねもや中門乃口打箱小儀わまけ録すも
戸乃口をあさがりさ入るさあをうりりして

同へい入のるさとりひままけ山あー我うまよ
あけりせ終人飛越て内へ入らんとり同海しと

る一鬼のうめよめ一のおりめど赴ある友の歴
り過より年六十計るり山伏一人行は速きなり
うんげいのよめ方のいひのまへに座あり人ぞと同
ままは是の法園一見の若くしてはがぶ家蔵の
そうをうもて建立あり大からんしてはなまは
一見仕はひいともやと存ある天訪するへまは也とぞ
治りきり天訪するもさうり事なれば我ふつじ
山一と日中並双の異地して待まりさや忍を
らんとしてさそひ行指ふわさごとくややゆり言
畢よせりわ濃ふ仏園きまはふまくと玉とある金を

ちりもめあり伝心さるり一めへじ方の毛うり
豊く思ひきまり角てえありゆりく思ふあま
け山伏雲家が袖とひいて是色未終ひり思お
よ秘所たそとせまんとて中裳のうり座ま
乃坊と母所しふ所へ行うまは是又神務の處地
るの善小軒と見まは人母やく座し終り我ハ
衣冠正あく金のしやとまら終る人えあり
我ハき僧の僧の飛して若そあの衣蓋あ人え
あり雲系をそらしらうう座ひさしよくまら
若く小清座と二つうあうりよ大るら倉北志

き成りひほくろひて恙座あさりた乃りさまは
去さハ尺計るる男乃大尺成もこゝろ人さる
が去てぞいさる丸の一は座まはらんまじり此は
去さ日月星辰をわさやう小磯うん成さ終へる
人金のしやをと持てるも右終ふ撥の祈修小
おそろお不思議めく引舟乃山伏ふりるる座
おいそとと人とも山あしあさる人あつ上座さる
端しそしめさく沈めく後らせ終人ともさるる
大乃男いそを義入乃の八男八郎をえしやる約
よたの座しそ代この帝王侯治れむい下い井上

クワダゴトバインゴダイゴインシシダイ
定后極多相院極醜醜次弟乃宅佐成極く勢
王乃とう男うとなり終ふやしくなき賢帝達よ
そ座の次るるさうさうさうさうさう志ん
世いそえさう志んららう仁海高雲おの高僧
蓮同大まらうと威くしあふお開りて下と乱い
へき淨定めくさるとそ治りきり雲氣をそるし
あうう不思議乃るさうさう思ひほく長右され
じ一乃座の省老山伏乞るり門をより終り終ふ
ぞととひきれも引舟乃山伏さうくとりさる
そ州比老僧會尺一てさうさう比同系申の事一は

とげ留見や終ふらん何るのう侍りと同をれん
雲家結るるのりまはしすはは只口桑河取れ
撰者のう月まで人取初く打あふされは事一着
も今更かゝ事一はりす共てんくのまゝとて
中少へま介由は拘軍由免申はは執吏のゆへ
由申不杖とい乞りて天下乃大成ふるりはりん
まらんやうんと事一はとそあふらんを時
山伏中をういさう事一えあうらん撰者のてん
うういぬあてんくのりさ計ぬえあふ守ぬと
いふとりふ、高岡白友も赤もあす月こや孫れ

みこと乃由末天子補佐の位とあてやしくるさ
上らうゆく後らせ終ふ撰井まとも今上皇帝
乃由是撰りて三塔の費首圓家撰物のとうり
高宗既密のありどゆくゆへはは拘軍とり
り矢乃右者ゆく満肉の撰獲の人也撰りふは撰
者こりち撰の勅をりううりんの撰人が撰
も人者也見拘のまとりふる海中の地下人志や
もい乃家友也そ是日日本一列と撰うめ終ふ事
人達よりり撰后し終へん正八撰大菩薩是日
大助那山王撰現乃りるをそゆくまは終ふり

よせば地とては地終ふまじり地終ふと云ふ
終ふ間之勝小終下て終る月建るなり也此僧もそ
比来よりおあしむ村雲の僧よりあるにや
三宗し小時刻うりて見ゆるとぞ早き人雲宗
さて今村雲の僧よりて新徳権勝世よりゆくは
いもろ人ゆくはそ東より久しい一向てんくゆく
あししまくと早しいいう極のりすては外境
と同けまれば僧の曰そまはさる事は故僧ハ終
ふさうし人まはしい間てんくの甲よりえんひ
わいて乳世のありうらのこあふはかりり

也世中まじりまればの極所へ海るもさるりさて
しそ所あがき小村雲と云ふ小僧とらるまき雲い
てんくの雲とらふそそいぬ也か極北更ゆぬ
く人よあはせ終ふてすもあはは雨へ
系終人てあは乃極とす也とそ終りけり雲
少しぎのりすとそ見ゆそのりかと思ひて下
乃重事し未系のあ居成さるもやと思ひくさて
均軍所先身執るりのるの不和いり月建が及極
ゆく始終通り作へきと人し三系友と執事
乃不岐名一あ目とてへさるる孫事しるる

了リ理ヒ也ヒ乃ヒ乎シハセ也ヒ也ヒと見紀ス人ノ一ノ人
こノ乃ヒあんふのひふせしる人時者あらませ世を
うもあん時ハ改乃ともよくなこのかりんとる物
とも思ひあらたる者を究ゆの故の故のあらます一
一事も通せら上らく中ゆつりて流素一は
あんそのあまはれ祿の三資の高りかんぬえそじま
天下を賤人の人の重ぬえたひて我が也とらあらす可
入をその里のあらふ心あり只師子のひしの師子此
國とくらふらしし一海く仁改と思ふ一事一を
さもあらす只人の於るけきのこ也それ仁とら

とと也海一やとら一あらく民とあらませじと仁
とりふそま改乃とりふハ國とあらま人也あら
ませ善也あんその改乃とりふらぞぶりくとんと甲とり
知らし目乃改乃とりふも善改とらす可也あらませ
一やうよして思ふ父子乃道ともりさす人と只
人の也と我者ふせんと計の心をまたらまらすらう
世はとりふら一は祿よく知見したらます一
さ福む我が金を蓄えるらも果報の淺深よして
りささら世はとり國とたらまらとり其美矣と
乃代一也とまた一人として世運とあらまらす

久小うを多所り也 志誠カコシし仏祓とぞふを扱そ
あゝあゝに米乃世をまけりしとて外の政乃何
るりる人々を然爾アシキヨクの道とてのしをまそひ
もさあふとてさう何まもしやる月さくわら
びんまううひりきし人々さんぞくうんぞく
とあ合てたひひ小祀ボシ耕のめ失とさう合ガり
さまはを年ブケの世成とるす 朝約ヨリトモキコラにあり
来言時ふあり色もそふ下一代カキのりやあさ
あはえて世乃主とるす 必中キ機ゆはあり蘇花
世きうがふあふあるす 一力カるく時と幸と共

一世乃乃理トウリありすはあ君成らう子ハ又成
あるす力とをそ何とそふと時イタ成り故ユ下新コシ
上乃一得シあり高カウキ法セイ苑も君立一人を成し力
とゆと下ゲ下バイ下セシ機乃士シ海成のびあまふよて天
下成家とるす也乞必推スるゆえありす時ジ代ダイ核キ
根コシあさうして因果イン業ゴウ報ボウの時成り故也君とをニ徳トク
へ配イし身りあアと下トし約ヨクし義ヨシ時トキとあさうと
りひりるたタ密シ固コのあり箱シ子シ孫ソふさう小光クワウ業エイ
せりもアがいあんの政道セイとをさるひをのまさと
せあく徳トクとわくさうあはは固ゆコこふ小民コくら

じまの所を建武南紀やうやくしうく少く時天心小
そひき仏神をて終ふ時をぬて先朝高時と遊伐
せうふも必しを後醍醐院の電座の成りよれす
自滅乃時ふも也世も上代仁徳之今の恙より
ゆさり終ひ一後鳥羽院の時も上代感えつよ
く下乃勝もよりありも下りち上まけねし来
世もよくらん乃時かなれ下りの事をとぬす
上まけさう事一の事賊よもの守軍のさうまの
さうも一もりてふゆ終ふも一と治りまされ書
叙うさうのてりさうく先代もしくく終るびまら

るく先朝久く四代とけぬさあゆ一海一以ハ
わも同をまけられ又子細あり事一小作先朝
お賢王乃ゆとせんと志終ひあり五美実の仁徳
ふゆく乃叙道いさうあぐあ一だくある成所さ
まられあるととこす神ゆが川あまは海依あり
やう小思くあももまあうまんのさうて実成あま
世のうれたそ建祖乃英王も末代ゆれありま
けまれ何事一ゆもさうまのゆとけれ人し一建武
そそあぐ一る建たか振乃雨とりてそゆさう
あさり建乃ゆとく高時さう方の地あのみあ

スナキカイダイ
別海内君王とさうしなる事一を記すにけきさ
まげ成運王乃し揚しつうじゆれ契劔を時色
ゆく失ふも仍武威さうりよきく國がとうも
也然たさつたし及百餘子の武家雅意小付せて
て下とけりささとりとて王位も文乃もおおる
故に國東さこのいよく改乃ともおさめ君王と
之のりめなる神まで法國小さうけいりて
垂うれ成法司勢師の公事一さうせい仏神れ
とお傳り成中成まといけご同おりし小時代
あゆんさ宿報の感果あり事一なまはた醜醜沈

イヨクワラドワ
我がとわらりて治ふよとて孫王道中より之
家業ささささささささささささささささ
びうん乃悉く治とむさうく都の外にささ
りり治ふ氣神の我約とて治ひ王威神ささ
所さし沈揚也氣之磨のあ徳て道の正時小お同
一國成うけ治ふ百小治治りねハ國とまがらね
あうし也これと神道王治たよるさ代りまは上
とこれ中治りて氣成り記まゆりささ
然まは神並師恭があ否均軍先身の治うそくえ
わさささ人さささささささささささささささ

くくとあぐぞ立りきり世方と見廻しうま
目とて小為乃山のしし跡りて東へ出り人知
きれをもきふとえりひて我宿踏またり来
心三月し小はし一ぎ城東とん小ううひもなき
てんくるるし新小きり毛也只打控つきよあ
且未代内相治止る南世の用ん小えりま
と思ひあはれ我方の利成りり足及あゆま書
のせ徳野の半王のううよ若文成書そ人負れ
辛酉六月三日とりき付て傳藝小付くを藝と誠
よ慥其のりりともるり

元長湯のうと師並とちうザんと歎まらる
う重し痛し師並師泰木津路の事上松島山が
ざん松浦く妙吉侍志あさり小中これきまら
軍小あうせまらで元長湯のうとむそら上松
ししけ山大高伴らあわしひ承下徳吉新飯又師
尾入る又六人し津定らて内師並兄弟と殊
さうまん課とと議せうまけつ大高伴らあ
力也あう岩前藝ちハ拘るまぬあ討の者なれ
とせうまら二人とくま小定めりし小あま
る事一あうと討まらうね松し用んせよとて

より乃名は百余人道具せうせしてひそりよきと
くくし^{ツキ}師^シ並^ヘとそめされきり師並ハ夏小之田
よりなる^ニ素^ソ一^{イチ}なる^ル師^シ並^ヘハ皆^ハを^ヲ侍^シ大^{ダイ}座^ザ
よる^ニ而^{シテ}申^シ門^ノの^ノ切^リの^ノき^とり^テ後^ニて^テ師^シ並^ヘ只
一人六間乃^{キマツレン}秀^シ座^ザしきり師並ハ今の余ハ風
ま月^{ツキ}籠^カの^ノ露^{ツキ}よりとあやう^と忍^ニき^りあ^らは^し結^ト
更^サハ^ハ事^シと^トま^まて^テ下^ノさ^しい^あら^りわ^らあ^らひ^原
下^ニ懸^カち^まよ^うの^ノ織^カよ^んり^りあ^らつ^けあ^らせ
と^と思^ヒひ^きん^てち^と又^シ代^スす^り扱^して^まん
と^と目^くり^せと^とあ^らり^きん^て師^シ並^ヘも^もや^き者^也
也

けま^けれ^やく^くら^らて^りり^りそ^めは^お出^り辨^すて^て
門^ノか^らり^るよ^しお^まを^のま^り宿^所を^も扱^きり^て
扱^きり^てく^わし^ひ原^ノ師^シ並^ヘ二人^ニ扱^キ素^ノの^ノ座^カ扱^キ不^レ承^テ
て^い間^ノ之^ノ象^ノあ^らの^ノ金^ノ上^ノ扱^キ島^ノ山^ノ人^ノ之^ノの^ノ隠^カ探^カ魁^ト
と^とい^はは^は連^カ角^ノと^とい^はは^は連^カと^と治^りを^れん^て扱^キ素^ト
扱^キの^ノ引^お扱^キと^と扱^キも^も後^ニ申^シ扱^キの^ノ素^ノ間^ノ之^ノは^は行^ハ
扱^キり^てと^と扱^キあ^らひ^原と^と思^ヒし^り師^シ並^ヘあ^らま^は
り^り用^心の^ノま^まひ^とく^くあ^らて^一族^ヲを^も扱^キ約^十万人^トを^も扱^キ
扱^キ家^ノ不^レ省^シし^とま^ま仕^シや^めの^ノ虚^病ト^とて^て扱^キり^り
あ^らる^去年^ノの^ノま^まより^り越^後と^と師^シ並^ヘハ^ハ捕^取治^治の^ノ為^メ小

河内國カワチより下る石川河原小向カひ城をのり人々石
つりきり城守並使とやりて事乃由と苦あり
けまは島山有末大吏キヨニキ信國キイの書シゴ獲してお
もしをんまよひまて石川城をふまへんはて城
極むのイキ意未動とぞ海上ある有末の良の師恭
か大指ゆくよ海をり申字給ひくひまのがんと
とらでちかあふまらさるも也と思ひまをれ
む版イラ為ラ渡ニ理リをニ入ニらドと使ゆくハサシあさり約ヨク意イより
川カハ經ニ文サイよりくめコト意あり同トをニく世セ勢ハのりりひ
ととくヒりウ書也シよりリ後ノ城ノ守トりて官於ニ

よと意せしシひり者也政シ不レ以テ下ノさるニ変レしト小
りんギんニりテさるニせらレるニとぞイあラせレるニま
あラ師シ恭キは使ニ対シてカ長キてシ人ハ茂ク城ノ切キく
及キ城ノあラんニてシのニ意ハゆクそレはラんハ何カ城ノ
上ニてシ由ニ事トとレ入ルるニとルのハおカるル
ゆるシりてシ屋ノくニ目ハ石ノ河ノ降ルとシおカけル
甲ウ冑ウとシよりシ共ニ三ノ子ノ余ノ孫ノゆクおカ立テまシり
よそ一ノまシりテ人ハ丈ハ七ノ子ノ余ノ人ハよりシてシひシ
まシ合カ戦セ乃ハ神ハ小カまシくハ越ハ白ク盡ス小カ東ハ入ルるニ目ハ城ノ
申スるハのハ守ルるハ城也師ハ恭ハ執ルるハのハ高ク取ル小カ付スとシ

東夷合戦乃らまをうてありとすくさまは八月
一日のよひは赤松入乃商人と子息律師別統
正が満げりのり七百餘騎まで武蔵当の屋敷へ
行ひし師並りて対面して三乗及びて建るく
師並が一隊とわろがさんとの作用意する所
のどふせまりはる約軍八回ころの由成るけ
まけて作人て武勝方振乃企よるふ乗るの祈
隠便ありて速くそ織と備くさんあやの罷と
ゆるくまへて守能いしと加アりり
トゆらうせぬきて討手とほりりて河より

マカウキカラス
寺氏必師並と一雨ふ際く安否成ともよまへんし
と終おされは約軍乃所委めけよとてりまを急
まう三乗及び討ま小向く夫一川仕らん
まをい東都のうすい用くごう一派通せん人多
く之をいんむくは程も只難儀よ是く作あ志矢
漆作及び板小舟とせりまへん一室中園北指
張引くせめ上られねと是ゆり計すては今秋
播磨へ下はく山陽山陰のあ乃と板坂松坂北
せりあよゆくうへて路ゆくとて一らんをま
められきんうけた刀ハ保昌よりけりりて代

こぎはなふ守りありと存く在るをすす
とて懐劍とりよる刀城ゆきののくろより
あて赤およしそ引りけきあふやく
しと新お城まぐ播戸國よとせ下三ふ余務と二
まこしけて備前乃亦飯義他の松坂二の乃と指
あきき義隆雲霧とるひりて圓天の横とそ
あしりりきんさまは西冬大勝して上らんと議
せしれきんがそとくお遠あしりきり
水取をのこび事
去程小海甲中凡今合戦ありしとてありて立

て貞和八年八月十二日乃膏う里投万務の長上
下へもせあふる乃足番業とりれととなりやむ
原もるりきり先三来あへきりたり人こゆは
吉良丸東大史藩義同上総三郎海貞石雲甲勢人
捕新原同丸る以新並石橋屋遠作ととより子息
治了大捕宣義急治修理大史高澄子息民アが捕
氏澄金才丸全大史相監氏新慈河冬行与詮新細
川利了大捕よりり同兵部大捕新島山大松
か務並宗上板伊豆与重徳同丸る助約原同原正
か務約貞長并大猪大史彦秀和田城行与重徳作

めくおる誠定めんと仰られきれば左邊流は
とせおのりうろそ花と石具とく拘軍の河所を
橋束の洞院へぞゆうしきんは率一の橋を思ふ
よりありしとや思ひきんしめとせあり
ある共五ふ騎十騎落うせて師直の手にそ加り
あるさまはひひひの一騎を摺のともり二
ありうく忠と存ふ共月ふ子騎ゆえううさり
りのたまは八月十三日の卯刻は成茂が師直子
息成茂又師直友うんの矢をお率ふくは成茂
河原に打ちく二まよひすとをりて拘軍に

河原の東水城十重二十重の町を見て三か町は
そのけりきり越後守師直いせふ余騎城に
て西側の水城立ちり橋子よしそまのりきり
成茂うり火とけり焼せめよしとせりしと
うは火火の余煙のぐまうとてそを急にお
雲霧のていし橋堂三度院へ三ざい難を成と
ひ僧侶男女赤瓦よあけまよふ内裡もををれん
軍坊のりふあきて橋をともむしとて俄に
新營をりもがさし拘軍の河原へ移幸する橋大
長徳家の心おありてさうきてもせ末葉中れ友

女メノノ九クツツリリめめりりりりりりししめめくくめめげげめめけけんん
八ハ座ザ々々毎毎々々位位六六位位大大使使介介死死ししりりくく階階下下をを上上
小小立立つつるるるるのの禁禁中中禁禁化化ののらら極極者者目目之之ののててらられれ
ねね業業下下也也歴歴意意のの来来いいてて下下家家のの海海しし世世上上ええ
めめおおるるるるりりしし小小去去年年捕捕正正行行乳乳ををおおうう一一ままりり
虎虎封封死死せせりりくくもも派派至至るるハハ世世小小感感ねねととううりりししハハ
めめハハ者者ハハ俄俄一一ハハ乳乳製製来来ねねままはは魁魁小小もも角角水水をを
おおささままりりややううねね世世中中ととるるけけううねね者者一一ととななりりりり
けけききとと均均軍軍もも危危急急湯湯ののここもも師師直直師師恭恭ああららひひをを一一
もも守守ららととりりみみたたああせせぎぎううめめふふよよととよよととんん事事一一

却却ててああららううくくるるうう一一共共門門前前小小ああせせぎぎもも内内後後
めめささららるる一一ととてて小小をを是是計計すすてて志志門門ままりりぬぬててれれ
うう一一つつりり師師直直師師恭恭義義務務ハハ氣氣中中ととななれれたたららずずがが
とと一一よよ守守るるるるハハ一一ははるるくく境境ハハ時時ととそそうう一一つつりり
もも極極小小ままりりのの是是彼彼者者法法りりてて師師直直ががああへへ極極らられれ
ももららハハ黙黙祖祖義義家家約約法法下下乃乃法法物物ととりりししよよりり以以
其其法法ががるるいいててああ家家かかいいたたいいののかかががくくここししてて未未
うう門門一一目目之之直直法法乃乃礼礼儀儀ととううここしし守守極極ららよよ一一
且且乃乃ののししととをを工工余余身身のの理理とと忘忘ままおおううややうう小小
子子細細法法のの人人もも大大軍軍ととおおししてて東東海海よよううここししとと

ますもいしひき成とりのやしと守成天のせめ成
このかかへす血中よいきと成子率一何と
ありぞ成て所存とる小但さん一かのあんぎ
まるくせよせて國成をうんりんとの企あけ
存性サイワラの同答よるふへす白母のまへ一我命と
とめてメチニチ忽小黃氣乃下小汝チシキが運ウシと思ふと
只一云ゴン乃申小そとくくの理成はくあく成ら
ままは師並いやくニシ色乃信と取セライむさとけ存
せは只さん志ん乃り成と取成りてゆへる
三乘後より師並イ一教イなりがえんとこの成ま

こうゆくの山アイダを男のあやまら成ら成と開ヒラき
さん一かの法中と結く結人の成アキとこうさん
一あふいとて成代成一同一さつとおろさ
うてと一面シ小すくめて成成と切こイまり成
右とをしとせめよりきく拘軍成イヨク成と急ウキ成
て墨代イの家人イ小うこまれて下五人このまおす
例レやあイらイく天下乃あさよりよ男と人
て成ウチ死シせんとして成小神イくりイ成イ成イめされけ
まは成上成下小の成りさる共イその成と成め
成めき成てあもや天下乃安成イとさも成ひや

しきりぬぬはるる遠のうらまざりぬれたるい
りまはるる遠のきりぬれたるい
さういぬぬはるる遠のうらまざりぬれたるい
知てぬぬはるる遠のうらまざりぬれたるい
びもさるる遠のうらまざりぬれたるい
義とさるる遠のうらまざりぬれたるい
はるる遠のうらまざりぬれたるい
しりぬぬはるる遠のうらまざりぬれたるい
お小ぬぬはるる遠のうらまざりぬれたるい
うぬぬはるる遠のうらまざりぬれたるい

とさるる遠のうらまざりぬれたるい
天下の大業のうらまざりぬれたるい
しりぬぬはるる遠のうらまざりぬれたるい
とぬぬはるる遠のうらまざりぬれたるい
はるる遠のうらまざりぬれたるい
へさるる遠のうらまざりぬれたるい
られぬぬはるる遠のうらまざりぬれたるい
とぬぬはるる遠のうらまざりぬれたるい
びとぬぬはるる遠のうらまざりぬれたるい
とぬぬはるる遠のうらまざりぬれたるい

小引替てんはくしおおらあが乃るり戸^トまさ
てゆくおひりて平あ雲よさうりのあり燧^ヒ多^{スイ}船^{フネ}よ
もうく。うり万^{マン}里^リつうりま^マく乃うまへ一^{イチ}義^ギつ^ツ九
あうのうふ思ひ^{オモヒ}流る^{ナガ}ま^マ袖^{スベテ}ら^ラら^ラ之^ノ流^{ナガ}忌^{イミ}あ
計也一年^{イチニシツ}又^{マタ}昔^{コト}氏^{ウヂ}の^ノ末^{マタ}初^{ハジメ}の^ノ軍^{イクサ}小^コ利^リす^クあ^ハく^ク九^ク列^{レツ}
へ^ヘ流^{ナガ}流^{ナガ}ひ^ヒら^ラし^シが^ガひ^ヒく^ク程^{ハジメ}す^ク海^{ウミ}流^{ナガ}の^ノう^ウら^ラし^シ
は^ハ流^{ナガ}流^{ナガ}ひ^ヒ一^{イチ}度^{タビ}を^ヲ用^ヒて^テわ^ワか^カま^マい^イ也^{ナリ}と^ト人^{ヒト}こ^コ上^ノり^リ
り^リさ^サあ^アた^タ初^{ハジメ}末^{マタ}を^ヲ用^ヒて^テし^シあ^ハく^クわ^ワひ^ヒの^ノ流^{ナガ}流^{ナガ}は^ハ流^{ナガ}流^{ナガ}す^クと^ト人^{ヒト}こ^コ上^ノり^リ
る^ルま^マは^ハせん^ン方^{カタ}る^ルく^クそ^ソ思^{オモ}ひ^ヒあり^リ々^々々^々九月^{クニツキ}十三^{トウサン}日^{ニチ}
名^ナよ^ヨお^オふ^フ月^{ツキ}の^ノ初^{ハジメ}め^メを^ヲ流^{ナガ}流^{ナガ}の^ノ思^{オモ}ひ^ヒ切^キ断^{タン}け^ケき^キて^テ並^ナ冬^{フユ}

の門さら我しとあうめひきけはきて
人おさううき月流ませはる
と^ト流^{ナガ}流^{ナガ}し^シ流^{ナガ}人^{ヒト}と^ト袖^{スベテ}を^ヲわ^ワら^ラう^ウら^ラわ^ワ人^{ヒト}ハ^ハる^ル
丸^{マル}を^ヲ以^ヒて^テ義^ギ流^{ナガ}流^{ナガ}乃^ノる^ル
と^ト流^{ナガ}流^{ナガ}小^コ三^{サン}乘^セあ^ハハ^ハ師^シ並^ナ師^シ泰^{タイ}が^ガり^リき^キと^ト流^{ナガ}り^リ從^ス流^{ナガ}き^キ
よ^ヨう^ウて^テ天^{テン}下^カ乃^ノ政^{セイ}勢^{セイ}の^ノり^リ口^ク入^ニ小^コ及^ツま^マ守^シ大^{ダイ}樹^{ジュ}者^者
元^{ゲン}來^{ライ}政^{セイ}勢^{セイ}流^{ナガ}き^キん^ンあ^アう^ウし^シ流^{ナガ}人^{ヒト}と^ト關^{カン}東^{トウ}の^ノり^リ乃^ノる^ル
義^ギ流^{ナガ}流^{ナガ}流^{ナガ}あ^アう^ウま^マく^ク並^ナ義^ギよ^ヨわ^ワら^ラう^ウら^ラ守^シ政^{セイ}乃^ノる^ル
と^ト流^{ナガ}流^{ナガ}師^シ並^ナ流^{ナガ}乃^ノる^ルと^ト流^{ナガ}流^{ナガ}乃^ノる^ルと^ト流^{ナガ}流^{ナガ}乃^ノる^ル
を^ヲり^リひ^ヒ丸^{マル}馬^バ頭^{トウ}と^ト上^ノり^リハ^ハ子^シあ^ア五^ゴ丸^{マル}と^ト甲^{ケツ}て^テ久^クく^ク關^{カン}東^{トウ}

小豆島より進みししが今ハ黒江のありしに
てきんるのなる上洛ありしをすくし同十月
日月丸の取極念と云く同月二日小入洛し給ひ
きり上洛の祈ゆくお見物也とて梨園は此のま
河東道まで接おと打て車と云くを候ち平のま
そ阿ふとひまの師並以下乃並東山六名並瑞多
色素向と東國乃大名を川越高坂次と一めと
て大崎より上洛するを是き進みありあつた
減と耳目と申くありの守を義とせくし善とせく
とを理りうなる御軍の長男ゆく並義比政勢より

かりり天下の權とごらん為小上洛ありするを
し一ささめつらつなりし御軍乃てい小つと
移へて他阿より勅許する大納言経政心と勅使よ
くてんさう上洛の要と雲し候らる同月廿六日之
来坊門高念並義約片の宿所へ移住せられやが
て政勢執行のさへ始あり目おかりし要たなり
並義約片にんとん乃奉付玄邊信常未約れ並
云箱と並義者世乃ありりりとやめお川共了大
揚殿皮のめさのコラチホリ小洛堀川の宿所へうりられ
小方り程之師並師番ハ角て始終所いさくと成り

浅やあられまゝきまらむ乃為小わしりる
とてひそりふうまひまもは申内之儀す
きれこそううひとむせんうめ小先世小重さく
由乃と授もてられあらん甲とあさせんともや
貞和六年十二月八日由殿に十二よして由乃
と授りし給ひきりしゆも活仕の給ひく種を
さるよていさるせんえ乃もいよぬし給ひ
幸一盛志必妻の理りとりひあさるうさてり
きつるゆを也よりあは天下乃事下りりひし
預りてあま今をあいつううの由小重と重

程死あまきん乃上よのまびるまよあさ
とてゆさる小海海河よゆうるいんその由
恒右のさ小若ひのき小松ありわらりし
烟よ終て終の月ありうりり換死風よ然て書
乃授せりそさり時うり事去て人物右小
由なる人としんしらそりうりおくの産よ産系
して産系とるけう川ひまもなかりたり樹しを
あま枯られく向あさうけねらびしとさゆさる
忍後ゆ外よけりるが筆に書えうう山あま
いゆ人ああし世の書よくも思ふ思ひさる書

あまのしほし小野の山今文思ひあはれはくとも
人もあまの思へた世の字のまじりて
同人をなかりと小獨法玄法中師並のゆり
しとぬく時こそ兼て異國平納の物語とも志
ましくさめ暮りあはれが老病よをうされて来ぬ
とPをまは茶張一包送給ふとまをたぐく之紙
あまのしほしと人とも思ふ表すうで
あまのしほしとあまの人もなき世なり
とりあはれは法中あまのしほしとあまのしほし
感念一日也 招我百年祀

救病産床下

救書持後痕

と一首乃小詩は九圓の思ひ成あまのしほし
箱をくは中あまのしほしとあまのしほし
れ小思ひて自比詩の奥小紙派つきて六喻般
乃其文とあまのしほしとあまのしほし
上救島山流飛苑列乃
去程小上救伴豆さる終島山大発か捕並家と
所飲とあまのしほしとあまのしほし
へ流しほしとあまのしほしとあまのしほし
なごかりとあまのしほしとあまのしほし

きくよやあざの別とりのりて女房が人も
暗ともるひく下人たるまねうひ祿の衣代露
おきく神とやねうと後目はよりりてあそひ
し事一るまけ猿の思ひとなくさめんと一面比
びしとるうううけ猿籠乃月小うんし後人む
玉昭若ぶあうく一変新月の着漢末弟里月おれ
うううと胡國乃うひとうみさう一を角やと
思ひあうれうり風乃風小園として和兼とねさ
とよ山くれ新秋のわうれと才小あられあり
わうまゆくのうまね龜坂乃う小今ハ大津の

東浦灘乃まきごの教よりを思へんおがさるけ
きりれたまね思ひと志の浦ありさよまう
さう浪乃うう浪乃うえうう山お七社の祓を伏
おうも乃乃末といのりてえ初小又も海つさ
るのううさ田よ川あまの月小もう海らわ我海
今津うひばと道乃と湖乃の旁よそむううらて
間小忍いりり小浦あり是るりたり初良香う右
三子世家ハ船およつさねと祿せあう月十二因
海乃心裡小電くりふ下乃句と毎才天の横路ひ
しあくふ橋もと魚とてあうと法殿成なる焼ね

塩漬と包めけ思ひくち乃秋の風ととあるわ
ちの山とてあさぢ給野をゆげとてあさ
あゝ蘇州のさつがの津あをさといひせて袖
すや波乃のらんらんさびしきちんまのふれ矢
田野ちり月を照山名とのこづくりひもあし活
取乃乳小勢里きん大うりか城沢忍上まけら
まうの角のうへ三子家夜火の志りは甲一せり
ああしまわさるうりさ世りみと今更丹うりく
計也至常乃虎乃乃とせびるうり野比系とせり
乃て今い我故さるうりさ月乃鼠の根とてふ子

り月まで葉乃り月色う霧の傘れりくつきとて
えきゆつさあのみんの流きとてまらぬとて
ちの座と付よきう南園乃書後代油川刑了大
猫八木光務乞紙結なて淡よりけるう紫比高れ
あゝしえりしをままんと思んどう小箱う記恒在
るうよげいごとと急てそをうまうりきりり
りきりなるぬゆくさうしをけたうりしうす
ひりい乃座形ハ三葉に義り一燈りるうべてき
まのなる小車る門前小燈集しむんかく裳上よ
巻ぬりてさるうりよしと恒結ひりよ今更列替

あんひまの長途^ナしやむらぶぶふえりる^ニふ
作乃^ノあみか松乃^ノりき^ニ時^ト面^ニも風^ニえ^ニ海^ニら^ニ福^ニも^ニあ
ま^ニの^ニつ^ニり^ニく^ニ深^ニえ^ニす^ニ一^ニま^ニれ^ニり^ニも^ニろ^ニ宿^ニ業^ニゆ^ニく
う^ニの^ニら^ニう^ニき^ニめ^ニふ^ニあ^ニふ^ニら^ニん^ニと^ニ我^ニあ^ニう^ニう^ニう^ニめ
く^ニて^ニあ^ニり^ニえ^ニう^ニひ^ニあ^ニき^ニ命^ニる^ニり^ニ々^ニう^ニと^ニ我^ニも^ニ師^ニ也^ニ不
足^ニし^ニや^ニ因^ニひ^ニき^ニん^ニ極^ニ乃^ニま^ニぎ^ニり^ニひ^ニと^ニえ^ニう^ニつ^ニり^ニ忍^ニ良
ひ^ニそ^ニう^ニま^ニ討^ニ手^ニと^ニ指^ニ下^ニし^ニ書^ニ獲^ニ代^ニ八^ニ本^ニの^ニ光^ニ緒^ニ一^ニ
り^ニひ^ニ合^ニ上^ニ松^ニ島^ニ山^ニと^ニう^ニ月^ニア^ニト^ニと^ニそ^ニ下^ニ知^ニ志^ニき^ニら^ニ光
縁^ニえ^ニと^ニい^ニ上^ニ松^ニが^ニ下^ニ知^ニま^ニあ^ニう^ニぶ^ニふ^ニえ^ニる^ニり^ニけ^ニつ^ニう^ニ成
送^ニ書^ニま^ニう^ニい^ニら^ニり^ニま^ニて^ニ俄^ニふ^ニん^ニう^ニり^ニり^ニき^ニま^ニれ^ニ八^ニ月
サシノカミ

其^ニ日^ニ乃^ニ勢^ニ才^ニ計^ニは^ニ停^ニ置^ニち^ニの^ニ配^ニ而^ニ江^ニち^ニの^ニ店^ニへ^ニ移^ニ
て^ニ那^ニ日^ニ乃^ニ書^ニ箱^ニ小^ニ高^ニの^ニ一^ニ旗^ニ定^ニ信^ニ大^ニ勝^ニゆ^ニく^ニ高^ニ園^ニに^ニ
府^ニま^ニつ^ニき^ニて^ニい^ニと^ニ何^ニ事^ニ一^ニや^ニら^ニん^ニと^ニ用^ニく^ニお^ニ尋^ニえ^ニて
い^ニく^ニと^ニ討^ニま^ニり^ニう^ニせん^ニ為^ニま^ニ下^ニて^ニい^ニる^ニう^ニ加^ニ振
ゆ^ニく^ニ内^ニ座^ニと^ニて^ニい^ニり^ニう^ニで^ニり^ニう^ニな^ニり^ニせ^ニ給^ニい^ニる^ニま^ニ今
我^ニり^ニと^ニれ^ニ我^ニま^ニ備^ニえ^ニれ^ニて^ニ落^ニさ^ニせ^ニ給^ニひ^ニて^ニ陣^ニ中^ニ越^ニ後
乃^ニ圃^ニま^ニ立^ニ去^ニの^ニと^ニせ^ニ給^ニひ^ニく^ニ拍^ニ軍^ニへ^ニる^ニア^ニ子^ニ細^ニと
入^ニさ^ニせ^ニ給^ニひ^ニう^ニく^ニ師^ニ並^ニ木^ニい^ニ忽^ニま^ニ内^ニ勤^ニ氣^ニと^ニ驚^ニり
内^ニ亦^ニ乃^ニ罷^ニあ^ニう^ニう^ニく^ニ殿^ニく^ニる^ニま^ニう^ニ陣^ニ末^ニの^ニ内^ニ事^ニ一^ニま
う^ニう^ニま^ニけ^ニい^ニご^ニの^ニ兵^ニた^ニゆ^ニを^ニ道^ニの^ニ箱^ニは^ニ内^ニ梯^ニ長^ニい

うし兵も也誠^{ウツキ}の^{チカツキ}を付^{ツキ}ひりねる^{ツキ}記^{ツキ}ふ^{ツキ}杉^{ツキ}ら^{ツキ}所^{ツキ}を
結^{ツキ}ひ^{ツキ}ゆ^{ツキ}人^{ツキ}と^{ツキ}誠^{ツキ}は^{ツキ}二^{ツキ}所^{ツキ}ら^{ツキ}る^{ツキ}付^{ツキ}は^{ツキ}甲^{ツキ}け^{ツキ}ま^{ツキ}度^{ツキ}ぐ^{ツキ}一^{ツキ}ね
き^{ツキ}と^{ツキ}付^{ツキ}着^{ツキ}ゆ^{ツキ}色^{ツキ}知^{ツキ}結^{ツキ}以^{ツキ}寸^{ツキ}と^{ツキ}ら^{ツキ}物^{ツキ}之^{ツキ}ね^{ツキ}あ^{ツキ}人^{ツキ}寸^{ツキ}女^{ツキ}所^{ツキ}
母^{ツキ}さ^{ツキ}る^{ツキ}ま^{ツキ}人^{ツキ}の^{ツキ}色^{ツキ}結^{ツキ}列^{ツキ}色^{ツキ}し^{ツキ}て^{ツキ}上^{ツキ}下^{ツキ}ふ^{ツキ}十^{ツキ}三^{ツキ}人^{ツキ}う^{ツキ}り
も^{ツキ}さ^{ツキ}し^{ツキ}る^{ツキ}う^{ツキ}る^{ツキ}扱^{ツキ}ゆ^{ツキ}く^{ツキ}加^{ツキ}疑^{ツキ}の^{ツキ}方^{ツキ}分^{ツキ}を^{ツキ}落^{ツキ}ら^{ツキ}れ^{ツキ}き^{ツキ}ん
時^{ツキ}し^{ツキ}も^{ツキ}し^{ツキ}と^{ツキ}あ^{ツキ}ま^{ツキ}み^{ツキ}そ^{ツキ}ま^{ツキ}通^{ツキ}一^{ツキ}里^{ツキ}は^{ツキ}物^{ツキ}ら^{ツキ}成^{ツキ}面^{ツキ}面^{ツキ}を^{ツキ}
う^{ツキ}月^{ツキ}が^{ツキ}し^{ツキ}く^{ツキ}ま^{ツキ}て^{ツキ}見^{ツキ}る^{ツキ}ふ^{ツキ}り^{ツキ}を^{ツキ}さ^{ツキ}面^{ツキ}面^{ツキ}の^{ツキ}乃^{ツキ}上^{ツキ}い
ら^{ツキ}か^{ツキ}ま^{ツキ}ら^{ツキ}る^{ツキ}さ^{ツキ}ら^{ツキ}り^{ツキ}ふ^{ツキ}め^{ツキ}と^{ツキ}ま^{ツキ}ん^{ツキ}て^{ツキ}い^{ツキ}ひ^{ツキ}び^{ツキ}ご^{ツキ}よ^{ツキ}あ^{ツキ}り
る^{ツキ}之^{ツキ}の^{ツキ}も^{ツキ}ま^{ツキ}く^{ツキ}結^{ツキ}之^{ツキ}さ^{ツキ}ま^{ツキ}度^{ツキ}も^{ツキ}さ^{ツキ}色^{ツキ}物^{ツキ}ま^{ツキ}と^{ツキ}似^{ツキ}り
ま^{ツキ}か^{ツキ}し^{ツキ}ま^{ツキ}り^{ツキ}足^{ツキ}ひ^{ツキ}え^{ツキ}あ^{ツキ}ら^{ツキ}ふ^{ツキ}男^{ツキ}る^{ツキ}女^{ツキ}の^{ツキ}色^{ツキ}結^{ツキ}列^{ツキ}親^{ツキ}あ

母^{ツキ}さ^{ツキ}る^{ツキ}ま^{ツキ}子^{ツキ}と^{ツキ}母^{ツキ}ひ^{ツキ}て^{ツキ}り^{ツキ}月^{ツキ}く^{ツキ}成^{ツキ}落^{ツキ}所^{ツキ}く^{ツキ}色^{ツキ}結^{ツキ}は
あ^{ツキ}ら^{ツキ}れ^{ツキ}共^{ツキ}結^{ツキ}より^{ツキ}結^{ツキ}色^{ツキ}わ^{ツキ}か^{ツキ}ら^{ツキ}ら^{ツキ}ん^{ツキ}と^{ツキ}を^{ツキ}ま^{ツキ}ら^{ツキ}あ^{ツキ}さ^{ツキ}
中^{ツキ}の^{ツキ}は^{ツキ}あ^{ツキ}ら^{ツキ}ん^{ツキ}甲^{ツキ}し^{ツキ}を^{ツキ}あ^{ツキ}ら^{ツキ}れ^{ツキ}る^{ツキ}ま^{ツキ}八^{ツキ}本^{ツキ}光^{ツキ}結^{ツキ}通^{ツキ}て
を^{ツキ}通^{ツキ}ふ^{ツキ}あ^{ツキ}ま^{ツキ}中^{ツキ}の^{ツキ}り^{ツキ}上^{ツキ}松^{ツキ}富^{ツキ}山^{ツキ}乃^{ツキ}人^{ツキ}く^{ツキ}流^{ツキ}人^{ツキ}代^{ツキ}才^{ツキ}と
ま^{ツキ}く^{ツキ}母^{ツキ}ち^{ツキ}ら^{ツキ}く^{ツキ}ゆ^{ツキ}く^{ツキ}る^{ツキ}あ^{ツキ}ら^{ツキ}し^{ツキ}色^{ツキ}結^{ツキ}る^{ツキ}く^{ツキ}皆^{ツキ}結^{ツキ}と^{ツキ}あ
よ^{ツキ}く^{ツキ}尸^{ツキ}圓^{ツキ}の^{ツキ}色^{ツキ}深^{ツキ}津^{ツキ}八^{ツキ}代^{ツキ}の^{ツキ}色^{ツキ}あ^{ツキ}流^{ツキ}る^{ツキ}う^{ツキ}り^{ツキ}の^{ツキ}色^{ツキ}
は^{ツキ}色^{ツキ}う^{ツキ}ら^{ツキ}あ^{ツキ}ぶ^{ツキ}ま^{ツキ}その^{ツキ}色^{ツキ}う^{ツキ}ん^{ツキ}こ^{ツキ}と^{ツキ}る^{ツキ}う^{ツキ}し^{ツキ}う^{ツキ}の^{ツキ}と
所^{ツキ}ま^{ツキ}く^{ツキ}落^{ツキ}人^{ツキ}あ^{ツキ}り^{ツキ}お^{ツキ}て^{ツキ}あ^{ツキ}よ^{ツキ}と^{ツキ}う^{ツキ}う^{ツキ}と^{ツキ}う^{ツキ}と^{ツキ}上^{ツキ}松
富^{ツキ}山^{ツキ}是^{ツキ}よ^{ツキ}母^{ツキ}ら^{ツキ}る^{ツキ}ま^{ツキ}く^{ツキ}一^{ツキ}足^{ツキ}え^{ツキ}う^{ツキ}記^{ツキ}へ^{ツキ}母^{ツキ}ち^{ツキ}の^{ツキ}記^{ツキ}ん^{ツキ}と
う^{ツキ}結^{ツキ}ま^{ツキ}あ^{ツキ}ら^{ツキ}め^{ツキ}さ^{ツキ}え^{ツキ}是^{ツキ}羽^{ツキ}乃^{ツキ}流^{ツキ}へ^{ツキ}行^{ツキ}つ^{ツキ}き^{ツキ}ま^{ツキ}れ^{ツキ}ん^{ツキ}河

乃橋と引掛くして是羽取橋の末尾川向小くして
一画よつとさあぐらうらうらへゆり八本
とよとこのまめとすうりしはちへ立海まは又
浅津の橋はまの月あくとけりも款うりく
うり共つうまの書れ大と書とよせめらからん
もゆくやと思ひあうれうり毛迄直のせんと成
忍こてんと付あうひけりあ黨十之人直れ自害
とよとめんるどしとさぬきて一がよ後とよ切
うりけり島山大慈が捕もほくうて腹切さうり
そのかを引ぬきて上校伊豆守の前ふるけやりは

うー刀ハちとすのびて忍くは毛までは自害作
へとりひえとてとらうりうり小腰とて成ま
うり伊豆守さり成手小ぬるうりく種あうね
うり世の名跡成手みめのと女房の方とほく
くときとて袖とりが小とてあて共さあくと
あき右あり計りてそしるふ時とぞ種とれきん
ま箱小ハ木光緒が中間花小りけとらまてさ
らるうれきりそとてけき成士さう人ハ平
生乃あうまひかやとも角とあまわなうり
まのあふあうり只あはれ死板とてと種正らま

るりしと初修す大納言 経心ツキアキキウにまゝ包てツキすれ
ありいお國の内務ウチノムの先例シイあが也保あ久あヒラアンキウジエあ
直也保あい滅コトは函ケツ併ヘイしりひひのヒ久あキウあア又
かまいるまはカむカんカきカとカひカとカらカりカひカひカひカ
そ上今乃お國ハ射カのカのカ滅カはカ運カしカ世カよカ守カ
るりさのしるりさまてカ夜カまカとカ義カとカとカよカらカひカ
政乃至乃あ人カは一人カまカのカのカりカをカあカ小カ南カまカりカ
法教も神カとカまカるカひカ和カ漢カのカのカ見カとカあカ成カまカてカは
海乃俄カ人カ成カらカすカとカ中カさカれカあカるカ皆カるカひカらカりカ
しそカ乞カ也カのカさカとカあカるカ及カびカ守カおカ國カ内カ毎カ小カ定カまカりカ

冷ひきりカ外カ毎カハ三カ条カ坊カ門カ源カ大カ納カ云カ家カ伝カ高カ念カ宰カ
お度カ通カ冷カ氣カ宰カおカ子カあカるカ也カ左カのカ侍カ後カハカ花カ山カ流カ
宰カ相カ伴カのカ家カ賢カ右カ乃カ侍カ後カハカ三カ位カ甲カ乃カ云カ
美也カ取カ乃カ大カ礼カハカ海カ乃カ禮カ氣カ少カとカ其カのカ状カ
親カ比カ更カ人カきカるカ人カるカけカまカとカをカらカびカ寸カとカはカあカそ
難カとカるカ寸カあカ況カ之カ見カ相カ乃カあカるカ由カ幸カ際カとカ外カ毎カ
りや乃西カ南カ乃カ門カ外カ乃カ車カ成カ立カらカれカ天カ子カ法カ心カ
見カ相カとカ美カしカ法カ清カ法カ計カ大カ成カとカ伏カとカはカ相カ播カとカ小カと
は立カとカ法カ清カ乃カとカ陣カ乃カ抽カらカ知カ疑カ風カとカ其カてカ
らとまカりカあカがカりカ玉カ樓カ目カとカあカいカ志カてカ交カ關カ入カけるカ

